

おばなざわ



新たな年の幕開け

目次

- 2 … 都市計画マスタープランアンケート調査結果
- 4 … トピックス・市長コラム
- 6 … おばなざわ日記
- 8 … みんなのページ
- 10 … お知らせ
- 12 … 米づくり数え唄

令和3年
1月
No.832

米づくり数え唄

正殿のあるお宅で見つけた、方言で書かれた稲作に関する数え唄です。(約60年ほど前に地域の方から預かったものだそうです。)
※今回この数え唄を紹介していただいた方からお聞きした話を元に解説を付けました。

- 一、ひとづとせ 広い田んぼに春が来た 梅の小枝にウグイスが、一声鳴いだよ ホーホケキヨ
【解説】「ひとづとせ、ふたつとせ…」とは、昔の数え唄によく使われた言葉で、「一つ目、二つ目」のような意味です。梅の小枝でウグイスが鳴いたのを聞いて、春が来た実感している様子。
- 二、ふたつとせ 深いかすみにつつまれて いな鳴く子馬よ春田打つ いぐら深くも腕すだえ
【解説】春、馬を引いて田んぼを耕す様子。馬を引く人の腕次第で耕運の善し悪しが決まります。
- 三、みいつとせ 水は流れる小雨降る 花の垣根で苗仕立て 水の掛け引き忘れずに
【解説】田植え前の風景。苗仕立てとは、まっすぐな良い稲になるようにすること、その際は水の調節を忘れずにすることが大事です。
- 四、よおつとせ 良き日選んで初田植え 並ぶすげ笠姉妹 真直ぐも曲がるも梓すだえ
【解説】田植えは、暦で縁起の良い日に行います。すげ笠はワラでつくった笠のことです。まっすぐに苗を植えられるかどうかは、木枠を転がして付けたマス目次第。(写真1)
- 五、えつづとせ 稲の穂すえに露受けて 青田涼しく月かざし、ホダル三ツ四ツ飛んで来る
【解説】暑い夏、稲は緑でも穂が出始める時期。月が緑の田んぼを照らす中、穂先についた露につられて雫が飛んで来る風情を唄っています。
- 六、むうつとせ 無理な追肥するよりも 額に汗して草を採る すべて四度も五度も
【解説】肥料を何度もまくより、額に汗を流しながら何度も草を採るべし。
- 七、ななつとせ 鳴る子鳴る田にスズメ飛ぶ かかし立つ田に夕日さす 西も東もみな黄金
【解説】稲穂が実り、稲が風に揺れて力サカサと音がする夕暮れ。黄金色に輝く田んぼの様子が浮かびます。
- 八、やあつとせ 八株つかんで一束する 青刈りハセ掛け乾燥して キセルくわえて夕帰り
【解説】稲は8株で一束にまとめ、少し稲が青いうちに収穫します。稲を乾燥させるためにハセ掛けし、たばこをくわえながら帰宅する農作業の様子が唄っています。(写真2)
- 九、ここのづとせ 米をこしらう若衆は どんな辛苦もいとわずに襦袢ひとつで玉の汗
【解説】どんなに辛くても文句も言わず襦袢(下着)姿で汗をかきながら米作りをする若者たち。一生懸命働く姿に誇りと称賛をもって唄っています。
- 十、とおおとせ トントン餅づくすの音 万作祝いや年祝い 祝い祝いで日を送る
【解説】収穫した米で餅をつき、豊作の祝いや年祝いをし、苦労した末にできた米の喜びを表現しています。



▲写真2 ハセ掛け



▲写真1 木枠で目印をつけていきます。

市の人口と世帯

	1月1日 現在	前月比
男	7,555人	(-7)
女	7,795人	(-20)
計	15,350人	(-27)
世帯数	5,382戸	(-2)

先月中の動き (届出件数)	
出生 ……	3人
死亡 ……	24人
転入 ……	15人
転出 ……	21人
婚姻 ……	7組

表紙

新たな年の幕開け

降りしきる雪の中訪れた、年越しの諏訪神社。1月1日午前零時とともに、雅楽の音色が境内に響き渡りました。尾花沢雅楽の奉納演奏は今年で60回目。今年は、16世紀中頃から宮中で病氣平癒や疾病鎮静などの祈願の際に演奏されたといわれる「五常楽の急」も発表されました。凜とした空気の中厳やかに舞う巫女の姿に、一日も早く平穏な日常が戻り、地域にさらなる賑わいがあるよう願いを重ねながら、新たな年の幕開けを迎えました。(令和3年1月1日 諏訪神社にて)